

文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)独立行政法人日本芸術文化振興会

京都観世会六月例会

令和4年6月26日(日) 午前11時開演 (午前10時開場)



主催 公益社団法人 京都観世会

蟻通 〈能〉

河村和重

鱸包丁 〈狂言〉

善竹隆司

夕顔 〈能〉

片山九郎右衛門 山ノ端之出

海士 〈能〉

橋本忠樹



会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

お問合せ・お申込み
☎ 075-771-6114
<http://www.kyoto-kanze.jp>
WEBサイトの公演情報からご予約が出来ます。



本公演は新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿った対策に取り組み開催致します。
前売券は5月1日(日)より発売致します。
◆WEBで指定席が購入できます◆

一般前売指定席券 (1階)	8,000円	※webにて販売
一般前売自由席券	6,000円	
一般当日券 (自由席)	6,500円	
学生券 (2階自由席)	3,000円	

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金です。

京都観世会館案内図



東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

- ◆京都観世会館へは
- J 京都駅から —
- 市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約30分)
徒歩約3分
- 市バス[86][206]で「東山仁王門」下車 — (乗車時間約30分)
徒歩約5分
- 地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて東西線に乗り換え「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
- 阪急京都河原町駅から —
- 市バス[31][46][201][203]で「東山仁王門」下車 (乗車時間約15分)
徒歩約5分
- 京阪三条駅から —
- 市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約7分)
徒歩約3分
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
- J R二条駅から —
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
- 山科・醍醐方面から —
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9~17分)
- 地下鉄東西線「東山駅」から —
- ①番出口から徒歩約5分

京都観世会六月例会

蟻通

河村和重 従者 中村宜成
 紀貫之 福王茂十郎
 従者 喜多雅人

鱸包丁

伯父 善竹隆平
 甥 善竹隆平

(一時頃)

休憩二十分

夕顔

片山九郎右衛門
 旅僧 宝生欣哉
 従者 大日方 寛
 御厨 誠吾

間 五條辺りの者 善竹彌五郎

休憩十五分

観阿弥祭

芦刈 杉浦豊彦
 自然居士 井上裕久
 芭蕉 大江又三郎
 狸々 林宗一郎

(三時頃)

(能)

海士

房前大臣 橋本和樹
 橋本忠樹
 従者 有松遼一
 大鼓 山本哲也
 小鼓 成田 奏
 充 笛 杉 信太郎
 間 浦人 善竹隆平

附祝言

(終了予定 五時前)

後見・地謡

(後見) 片山伸吾 (地謡) 寺澤拓海
 井上裕久 樹下千慧 浦部幸裕
 大江泰正 越賀隆之
 深野貴彦 浦田保親
 吉浪壽晃

(後見) 上吉川 徹

(後見) 味方 玄 河村紀仁 分林道治
 大江又三郎 (地謡) 大江広祐 青木道喜
 河村和晃 浅井文義
 宮本茂樹 河村晴道

(地謡) 梅田嘉宏
 古橋正邦
 浦田保浩
 大江信行

(後見) 橋本光史 谷 弘之助 吉田篤史
 河村晴久 (地謡) 河村浩太郎 味方 團
 河村和貴 林 宗一郎
 松野浩行 田茂井廣道

【お知らせ】

当館ではアルコール消毒液の設置や、多くのお客様が手に触れる箇所には定期的に清掃・消毒を行っております。
 「検温」「マスク着用」「咳エチケット」「手指消毒」のご協力をお願い申し上げます。
 ・発熱・咳など風邪症状のある場合は、「こま館前に医療機関」にご相談ください。
 ・「字幕解説サービス」専用端末は千円(税込)にて貸出いたします。
 今後の状況の変化により、当日券販売の有無や催し物の内容変更または延期となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

解説

歌人紀貫之は、和歌の神である玉津島明神に参ろうと、紀の路の旅に出る。その途上、にわか雨が暮れ大雨が降り、乗っていた馬も伏して動かなくなつた。困り果てているところに、傘をさし松明(または燈籠)を持った宮守の老人が現れ、物咎めされ蟻通明神の神域を、下馬もなく通るとは命もあるまい、と言ふ。なるほど宮守の待つ燈の向こうに社があり、貫之は恐縮する。宮守は彼が貫之と分かる、和歌を詠んで神に手向けよと勧める。貫之は「雨雲の立ち重なる夜半なればありとほしとも思ふべきは(雨雲の重なる闇夜ゆえ、星があるとも、蟻通の明神とも思ひはしなかつた)」と詠む。宮守は歌の面白さに感じ入り、和歌の源流やその徳を説き聞かせる。貫之の歌は神に通じ、馬も歩み始める。今度は貫之の勧めで宮守が祝詞を上げ、神楽を奏する。やがて宮守に化現していた蟻通の神は上がられ、貫之も喜び旅を続けるのであった。

夕顔 山ノ端之出

豊後国(現大分県)の僧が都に上り、仏閣を廻つて、ある日五条辺りに来ると、破屋より歌を吟ずる女の声が聞こえる。女は紫式部の昔を思い、恋の妄執に悩む風情である。僧が所の名を尋ねると、女は、ここを紫式部は何某の院とのみ記したが、かつては光源氏の河原の院であり、後には光源氏に伴われた夕顔の上が、物怪に憑かれて命を落とした所であると答える。そして「源氏物語」殊に「夕顔の巻」について詳しく語り、夕顔が息消した有様を再現し、その夕顔が夢に現れあなたに語っているのだと言つて消え失せる。(中人)

海士 藤原不比等の世継ぎ房前の大臣は、母親が讃州志度の浦の房前という所で亡くなったと聞いて、追善を思い立つた志度の浦までやってきた。そこへ一人の海士が現れ、次のように物語る。唐の高宗の妃となつた不比等の妹が氏寺である興福寺へ三種の宝を送つたところ、その中の明珠がこの沖で龍神に取られた。不比等は身をやつしてこの浦に下り、海士少女と契つて一人の子をもうけ、明珠を奪い返すことが出来たらこの子を世継ぎにする約束する。女は命懸けで海底に入り、ついに明珠を奪い返したのである。房前は自分こそその海士の子であると名乗る。海士も自分が母の亡霊であることと明かし、回向を乞うて波の底に消え失せる。(中人)

お客様へお願い

- ◆都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆場内では携帯電話等の呼出音をお切りください。
- ◆東隣に有料駐車場がございます。満車の際は岡崎公園市営地下駐車場をご利用ください。

【表紙写真】

(蟻通) 橋本雅夫
 金の星渡辺写真場撮影

次回予告

京都観世会八月例会

令和4年8月28日(日)

午前11時開演

(能) 放下僧 味方 團
 (狂言) 吹取 野村又三郎
 (能) 浮舟 杉浦 豊彦
 (能) 融 橋本 擴三郎
 舞返之伝